

「家族療法基礎講座」のお知らせ

一般社団法人日本家族療学会は、家族療法の普及と人材育成を目指し、研修体制を完成すべく取り組んでおりますが、「家族療法基礎講座」は、その一環として開講されたものです。本講座は以下の9講座で構成されます。各講座の講師は、その領域の第一人者に務めていただき『家族療法テキストブック』に沿って、家族療法の理論や基礎概念を学べる内容となっております（なお、この基礎講座は「認定ファミリー・セラピスト」の認定要件になります）。みなさまのご参加をお待ちしております。

なお、2023年度からは、新型コロナウイルスの感染予防に加え、家族療法の普及と幅広い参加を促すために、Zoomでのオンライン開催となりました。ウェブサイト上の「オンライン開催にあたっての注意事項」をお読みの上、ご参加ください。

●2023年度「家族療法基礎講座」プログラム

第1回	5月14日(日) 10:00~16:00	「家族療法概論 ー基礎理論と歴史」
第2回	6月11日(日) 10:00~16:00	「多世代伝達モデル」
第3回	7月23日(日) 10:00~16:00	「構造的モデル」
第4回	10月15日(日) 10:00~16:00	「コミュニケーション・モデル」
第5回	11月19日(日) 10:00~16:00	「ミラノ・システムック・モデル」
第6回	12月10日(日) 10:00~16:00	「対象関係論的・力動精神医学モデル」
第7回	1月7日(日) 10:00~16:00	「ナラティブ・セラピー」
第8回	2月4日(日) 10:00~16:00	「家族心理教育」
第9回	3月10日(日) 10:00~16:00	「バイオサイコソーシャル・モデル」

●会場：zoomでのオンライン開催

●定員：30名程度

●参加費【毎回】会員 6,000円/非会員 9,000円 申し込み後、開催期日の一週間前までに参加費をお振込みください。振り込みが確認できない場合には参加申し込みは無効となりますのでご注意ください。

●申し込み方法 日本家族療学会ウェブサイトのフォームからお申し込みください。い(www.jaft.org→「お知らせカテゴリー」→「家族療法基礎講座」)。開催日の3日前までにURLと資料をお送りいたします(第7回のみ前日までに送付となります)。Zoomへは参加者本人のお名前でないとう入室できませんのでご注意ください。

※この講座は、臨床心理士のポイントになります。

●問い合わせ先 一般社団法人 日本家族療学会事務所 東京都千代田区一橋 1-1-1 パレスサイドビル(株) 毎日学術フォーラム内

TEL：03-6267-4550/E-mail:maf-jaft@mynavi.jp

○「家族療法基礎講座」内容

講座番号①「家族療法概論—基礎理論と歴史」

[講師] 榎林理一郎

内容—家族療法とはどのような臨床領域なのか、概論および基礎理論と歴史を学ぶ。

講座番号②「多世代伝達モデル」(多世代家族療法)

[講師] 福山一女

内容—多世代家族療法は、マレー・ボウエンが体系化した家族システム論の諸概念を適用し多世代の家族を視野に入れた家族療法である。ジェノグラムや家族ライフサイクルの視点を加味している。講座では、ボウエンの家族システム論に基づき、主要な五つの概念を理解する(三角関係、分化度、情動システム、家族投影プロセス、多世代伝承プロセス)。ジェノグラムを用いた多世代家族療法のDVDを聴取しながら、このアプローチのエッセンスを共に考えたい。

講座番号③「構造的モデル」(構造派の家族療法)

[講師] 吉川 悟

内容—構造派は、サルバドール・ミニューチンがP.C.G.C.で創始したアプローチである。設立時の精神分析の影響を示しつつ、構造派の鍵となる諸概念と具体的な介入の特徴について解説する。その上で、構造派の基本的な視点をういた面接場面を解説しながら、構造派の介入の象徴とされているhere & Nowの演習の一部を行う。

講座番号④「コミュニケーション・モデル」

[講師] 村上雅彦

内容—コミュニケーション・モデルは、独特の介入技法を持ったアプローチです。家族療法テキストブックに沿って講義・演習を行います。

講座番号⑤「ミラノ・システムック・モデル」

[講師] 吉川 悟

内容—ミラノ派のアプローチは、現在最も注目されている「オープンダイアログ」の入り口となった手法であり、かつMRIの発展ともなされています。複雑な手続きと、理論的背景を持つアプローチですが、できるだけ簡便に活用する要点を演習します。

講座番号⑥「対象関係論的・力動精神医学的モデル」

[講師] 渡辺俊之

内容—外的、現実的家族に介入するとき、家族メンバーの心にある対象関係も動きます。狩野は、家族療法家はシステム論と力動精神医学の二つの視点による複眼的なとらえ方が治療の幅を広げると述べました。心の中にある父親表象や母親表象が現実の家族や生活の中でどのように作用するかを一緒に考えていきましょう。

講座番号⑦「ナラティブ・セラピー」

[講師] 小森康永

内容—ホワイトとエプストンのナラティブ・セラピーに加え、アンダーソンとアンデルセンのアプローチについて、技法だけでなくその認識論などもわかりやすく解説。ゲスト・スピーカーに『会話・協働・ナラティブ』の共訳者、奥野光、矢原隆行の両氏を予定。

講座番号⑧「家族心理教育」

[講師] 後藤雅博

内容—家族心理教育は、様々な持続的な困難を抱える家族を支援するための構造化されたプログラムです。その構造は、問題についての情報を共有すること(教育的部分)と問題から生ずる困難さに対処する技能を学ぶこと(対処技能部分)からなり、目標を家族のエンパワメントにおくことが特長です。講座は講義と演習からなり、家族グループおよび単家族への心理教育を学びます。

講座番号⑨「バイオサイコソーシャル・モデル」

[講師] 渡辺俊之、上別府圭子

内容—システム理論をベースにしたバイオサイコソーシャル(BPS)な視点からの対象理解は、医療、看護、福祉、教育などすべての領域で重要となります。エンゲルが唱えたバイオサイコソーシャルアプローチを家族療法、家族看護の立場から紹介します。また、演習として参加者自身のジェノグラムワークを実施します。